

以前本誌（Leaf 地域連携だより vol. 9, 2018.2）に当院の人工透析センターが新設されたのをきっかけに、「透析センターのご紹介」といわき地域慢性腎臓病（CKD）治療の展望」について記載させて頂きました。それで一応の仕事を果たしたと思つていました。が、今回また執筆の順番が回つて来たということが担当者の方から内容は何でもよいから書けとのご命令でもあつたので、それなら「小生のひとりごと」とでも題して、長年ときわ会にかかわって来た

はじまり

今回は常磐病院 名誉院長・人工透析センター長の川口洋先生を「紹介します。「その軌跡とときわ会のCKD診療」をテーマに」寄稿いただきました。



常磐病院 名誉院長
人工透析センター長
腎臓内科医
かわぐち ひろし
川 口 洋

一医師として自らの軌跡を振り返つてみようかと思いまし。本誌の趣旨（地域連携だより）とは大幅にずれますが、もし暇なら気楽にお目をお通しください。

ときわ会の内的パワー

ときわ会には東京女子医大腎臓病総合医療センターから約10年の非常勤勤務を経て、1997年5月にいわき尿器科院長に就任させて頂き、2011年7月に現在の常磐病院に移りました。そのまま本邦初である「透析患者さんの広域避難を伴う東日

小生の軌跡とときわ会

次に皆様には何の役にも立ちませんが、自らの辿つた道を振り返つてみましょう。小生、岩手医科大学卒業（1977年3月）後、聖路加国際病院・4年、東京女子医大腎センター・15年、そしていよいよときわ会・ひやー、なな



外来のスタッフと共に。

ときわ会でのお仕事

当初はときわ会内部での診

療が主でしたが、次第に地域医療の一環を担う立場（人みな最後は体液／腎障害）から院外の多くの地域の先生方や医療スタッフとの交流も拡大されてきました。2014年には「いわき市CKD医療連携を考える会」を立ち上げ、主としてクリニックの先生方のご協力を得CKD診療の啓蒙にかかわってきましたが、まだまだ力不足でした。

（うら面へ続く→）

ときわ会常磐病院では、地域の医療施設・介護施設との連携を強化するため、当院の最新の医療情報を定期的にお知らせしております。



ときわ会
TOKIWAKAI GROUP

常磐病院
Jyoban Hospital

なんと！38年もお世話になつてしまつていた。畢竟、ときわ会は居心地良く甘えていたのだ!!!常磐会長に陳謝!!!さて独断と偏見で、この間何を学んだのかという反省を含めて、各職場におけるEndopoints（？）を以下に。

聖路加国際病院・今更アメ

リカ医学でもないが、当時はトイスター先生／日野原先生の新米レジデント医者に対しても医師としての重要な心構え教育、臨床医としての思考訓練、チーム医療の叩込み、

東京女子医大・学問としての腎臓病学の研究・小生実験大好き人間であつた！なお実験データを迅速に獲得するため論文は目的と方法しか読まなかつた。ときわ会・残念ながら当時のいわき地区ではまだ未発展であった腎臓病領域の地域医療／連携の確立と展開、に簡潔に集約できそうです。



常磐病院 名誉院長
人工透析センター長 川口 洋
腎臓内科医

[所属学会]

- ・日本透析医学会 専門医、指導医
- ・日本腎臓学会 専門医、指導医、功労会員
- ・日本移植学会
- ・日本小児科学会
- ・日本小児腎臓病学会
- ・急性血液浄化療法学会
- ・日本-HDF研究会
- ・日本-IHDF研究会
- ・日本臨床腎移植学会 腎移植認定医

[著書]

- ・「透析療法 専門医にさく最新の治療」
 - ・「至適透析をめざして 一歩進んだ透析治療」他
- [学会開催]
- ・第16回(平成17年度)
 - 日本サイコネフロロジー研究会 大会長

常磐病院 TOPIX

手術室でドクター体験

～医師を目指す高校生3名が参加～

8月10日、ときわ会常磐病院主催「高校生 手術室でドクター体験」を開催しました。高校生対象のイベントとしては、今回が初。医師を目指す高校生3名が参加し、腹腔鏡手術や、手術支援ロボット「ダヴィンチ」の操作などを体験していました。

後半は、若手の医師や初期研修医との座談会を実施。高校生から医師達への質問や、医師それぞれの学生時代のエピソードなどが語られました。



イベント用に作られたオリジナルのスクラップを着て縫合体験をする高校生。



△当日の様子を動画にまとめました。こちらからご覧ください。

公益財団法人ときわ会 常磐病院（院長 新村浩明） 地域医療連携課

窓口受付/毎週月曜日～金曜日 8:30～17:00

〒972-8322 福島県いわき市常磐上湯長谷町上ノ台57番地

TEL:0246-81-5522 / FAX:0246-81-5577

ときわ会常磐病院では、診療科の増加に伴い診察可能な疾患も増えました。

患者様のご紹介に関しまして、今後もお気軽にお問い合わせくださいようよろしくお願いします。

一方、新潟大学／東京女子医大泌尿器科のご協力で本邦初のクリニックでの腎臓移植も導入しました（計23例）。ちなみに当時磐城共立病院腎臓内科部長の鄰幸三先生（現・いわき泌尿器科院長）には新参者（小生）に対して多くの指導を頂きました。感謝!!

最近のときわ会と 小生の思い

その後皆様ご周知のよう、腎臓内科および泌尿器科を中心としたときわ会は、他科診療科等を包括し、一山一家のスロー ガンのもと、いわき地域医療を担う不可欠の医療施設との業績と評価を獲得いたしました。これは逆に言うと社会的使命／責任が大きくなつたということと認識しております。

一方わが腎臓内科においては、スタッフ不足で少人数ながらも、優秀なスタッフがそろつており、各スタッフが粉骨碎身診療に従事してきたと

思っております。またCKD診療の真骨頂であるチーム医療を担う多くのco-medicalスタッフの努力により当腎臓内科が維持されてきたものとも考えております。今後ともいわき市CKD地域連携の確立のためにsustainableなチーム医療の確立が必須です。

さて話しあがらりと変わります。得か損かは別として、小生はいつもなぜか年齢よりも若く見えるようで、他人からいわれることが多いです。ま、いわゆる「先生お歳は60歳代ですか」といわれることが多いです。ま、serviceでしようが、そういう

「先生お歳は60歳代ですか」といわれることが多いです。ま、いわゆる「先生お歳は60歳代ですか」といわれることが多いです。ま、



ご自宅にあるカエルの人形。

単身赴任とカエル

最後に、約28年のいわきでの単身赴任は辛くないのかと

いうが、何といつてもその見極め（引き際をきめること）は非常に微妙かつ困難で、時機を誤ると老害というご迷惑を他人におかけするので、それだけはぜひとも避けたいと感じる今日この頃といったところでしょうか。

住んでおります。

毎日彼ら（彼女ら）??判別不能)がいますので、長年のいわき単身赴任の大きな癒しになつて来たのだと納得してい

る次第です。

以上、雑駁な文書で、恐縮でした。一医師のひとりごととしてお許しを。

さてこれからもいわき市CKD地域医療の発展のために頑張りましょう。

いう質問をよくされます。あまりにも長い期間なのでもう単身に慣れたとも言えます。が、もう一つ理由があります。

小生は幼少の頃からなぜかカエルが大好きで、いわきのアーバートには、何年も前から皆様から頂いたものも含めてほぼ100匹のカエルの人形が



公益財団法人
ときわ会 常磐病院